

笑顔のトミツは本の中

こどもの読書週間



こどもの読書週間とは？

こどもたちにもっと本を、こどもたちにもっと本を読む場所をとの願いから、「こどもの読書週間」は1959年（昭和34年）に誕生しました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間（5月1日～14日）でしたが、子どもの読書への関心の高まりを受けて、「子ども読書年」である2000年より現在の4月23日（世界本の日・子ども読書の日）～5月12日に期間を延長しました。

幼少の時から書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、物ごとを正しく判断する力をつけておくことが、子どもたちにとってどんなに大切なことか。こどもに読書をすすめるだけでなく、大人にとってもこどもの読書の大切さを考えるとき、それが「こどもの読書週間」です。

（参考・社団法人読書推進運動協議会ホームページ）

※図書館でも、こどもの読書週間にちなんだイベントを企画しています。お楽しみに！

手作りのぬくもり 布えほん展示します！

4/23(木)～5/12(火)

町立図書館には、ボランティア・グループ「葉の会」のみなさんが作製された“布えほん”があり、館内でご利用いただけるようになっています。しかし、まだまだご存知でない方が多いためか、利用が少ない状況です。そこで「こどもの読書週間」の期間中、カウンター前のコーナーに展示することにしました。実際に手にとってご覧ください。館内の絵本コーナーなどにお持ちいただき、遊んでもらうこともできます。どうぞご利用ください。

読み聞かせ、応援します！

シリーズ図書館が選ぶ本7

読み聞かせにおすすめの本を紹介します。子どもたちにとっては、自分で読むのも面白いですが、読んでもらうとまた違った楽しさがあるもの。読書へのきっかけづくりとして、おうちでもぜひ挑戦してみてください。

春のおはなし



『おなべおなべにえたかな』
こいでやすこ
(福音館書店)

おばあちゃんから頼まれた、おなべの番。何回も味見をしているうちに・・・春の匂いがたつぷりつまった絵本。

くりかえしが楽しいおはなし



『なわとびしましよ』
長谷川義文
(学習研究社)

なわとびしましよ♪のかけ声で、いろいろな人がなわとびに参加します。次は誰かな？と問いかけながら読むのも楽しい絵本。

ありえない！？おはなし



『わゴムはどのくらいのびるかしら?』
マイク・サーラー
(ぼるぷ出版)

のびるのびる、わゴム。部屋から外へ、バスに乗って、汽車に乗って、最後には？最初にわゴムを見せてから始めると、さらに楽しいです。

科学するおはなし



『ミミズのふしぎ』
皆越ようせい
(ポプラ社)

知っているようで知らないミミズの生活。特にミミズが卵を生み落とす方法には、へえ、となるはず。科学する心を刺激する本。